

電カル「Opt・One3」に搭載

口腔内所見^{など}探索して提示

三つのAI 開発

オプテック(本社・東京都中央区、平出隆一社長)は、歯の治療計画や口腔内所見、病名の事例を探索して提示する三つのAIを開発し、同社の歯科用電子カルテ「Opt・One3」に搭載すると明らかにした。三つのAIは、5万件以上の歯科カルテデータを学習しており、来月のバージョンアップ時からOpt・One3上で利用できる。歯の治療計画や口腔内所見、病名の事例を探索して提示するAIが歯科用電子カルテに搭載されるのは歯科界初という。

オプテック

スト」で表彰を受けたという。

「病名から治療計画の事例を探索して提示するAI」では、「年齢」「治療部位」「病名」などを入力すると、関連性のある過去の治療計画が一覧で表示される。示された一覧から治療計画を選ぶと、電子カルテに記載され、患者に渡す治療計画書が作成される。治療部位が2カ所以上など複雑な治療計画を立てる場合にもAIが一覧で例示する

ので、患者への治療順序の説明を早い段階で行える。「病名から所見の事例を探索して提示するAI」では、「病名」「年齢」を入力すると、カルテに記載された所見が一覧で表示される。示された一覧の所見情報を参考にカルテに必要な事項を記載できる。カルテの記載に不慣れな経験の浅い歯科医師でも必要な情報を入力できる。

「治療から病名の事例を探索して提示するAI」では、実際に行った治療内容をを入力すると、関連する病名を一覧で表示する。客観的なデータとして例示されるので、セカンドオピニオンとしての役割も担える。医療のデータ活用におけ

開発した三つのAIは、「病名から治療計画の事例を探索して提示するAI」「病名から所見の事例を探索して提示するAI」「治療から病名の事例を探索し

て提示するAI」。質の高いカルテ作成やカルテ入力作業の大幅な削減、治療計画書の効率的な作成が可能になる。三つのAIは、令和元年9月27日に日本マイクロソフト(本社・東京都港区、津坂美樹社長)で開かれた同社主催のイベント「FY20 Data&AI提案ブ

レゼンテーション」コンテ

る各国比較では、日本はOECD(経済協力開発機構)23カ国中最下位となっている。平出社長は「自民党が2022年5月に示した『医療DX令和ビジョン2030』では、30年までに歯科を含めた電子カルテの全医療機関への100%の普及を掲げている」とした上で、「昨年6月7日に閣議決定された『経済財政運営と改革の基本方針2022』では、電子カルテデータを治療の最適化やAIなどの新しい医療技術の開発に有効活用することが示されていることから、今後、歯科用電子カルテを利用した医療データ活用は必然になる」と指摘する。